

図書名	受験番号	氏名
新人保育者物語 さくら		

この本には、保育士という職業に就く前と就いた後の理想と現実の違いに悩み、一つ一つ少しずつ解決策を見つけていくという女性の姿が描かれていました。また、段落ごとに先輩保育士からのアドバイスなども載っており、とても為になる一冊だと感じました。保育者は子どもたちとの距離がとて近く、その瞬間ごとの接し方や伝え方によっては、子どもたちの成長に大きな影響を与える職業だと考えます。そのため、慎重にその場の状況や過程を見極め、対応していかなければなりません。物語には、子ども同士がケンカをして、一人が泣いてしまった所で保育者が気づき、その泣いている方の子ばかり気にしてしまい、泣かせてしまった方の子には「いけない」と、過程を考えもせず"に言っていました。きっと私がその場においても同じことをしてしまっていたことでしょう。しかし、この本を読んだことにより、保育者は泣いている子の立場に立ち「人が嫌がることをしてはいけない」と教えるのではなく、中立的な立場に立ち、子どもの実態、発達、興味・関心などを総合的に考え、状況に応じた適切な援助をすることが求められているのだと学びました。「人の嫌がることをしてはいけない」というのは本当に大切なことではありますが、この場面には適切でないと考えます。また、保育士の仕事は子どもたちと一緒に過ごし、側で援助するだけでなく、砂場が固まっていたら掘りおこしたり、遊具が雨でぬれていたらふいたり、辛くて文句を言ってしまうような仕事まで様々です。しかし、どれも大切なことで、「プロだからやる仕事」と考えることが出来れば、素直に楽しんで子どもたちと向き合うことが出来ると思います。物語の中の女性保育士は、全てをきちんと掘りおこしてしまい、子どもたちがそれを当たり前だと思い、自分が感じた様な感動を持ってないことをもったいないと考え、一部だけ残しておき、硬い砂場とふれ合える環境を作るというアイデアで子どもたちを楽させていました。教科書や先輩保育士のアドバイスから得た知識だけで子どもたちと付きあうのではなく、自分なりに子どもたちの立場になり、アイデアを出すことが保育士として成長できる道だと私は考えます。また、保護者の苦情に過剰に反応せず、冷静に対応することも重要です。子どもたちを援助する上で、保護者との連携は不可欠です。細かいこともきちんと報告したりと、しっかりコミュニケーションをとることが大切だと考えます。誰も最初から完璧に出来る人はいません。少しずつ先輩保育士の「技」を見習い、自分なりの保育を見付けていき、子どもたちが楽しく居心地の良い環境を作れる保育士を目指します。そのためには素直にアドバイスを聞けるというスキルが必要になってきます。今のうちからそのスキルを磨いていきます。